

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	老人のための明るいまちづくり推進事業			事業コード	434
所属コード	066100	課等名	高齢者支援室	係名	
課長名	渡邊 光市	担当者名	鳩岡 聡子	内線番号	3565
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者の社会参加の促進	コード	1
予算費目名	一般会計 3 款 1 項 3 目 老人のための明るいまち推進事業 (007-01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 51 年度	
根拠法令等	特になし			

(2) 事務事業の概要

高齢者の生きがい対策のために、専門に職員(非常勤)を置き、生きがい対策を推進するとともに、高齢者の趣味・文化活動を促進するため、活動成果を発表する機会として各種行事を開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

昭和 51 年 10 月に施行された「老人のための明るいまち推進事業要綱」に基づき推進。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

盛岡市老人作品展, 芸能大会については, 芸術文化活動の発表の場として, 出場者及び出品者に定着している。

高齢社会が急速に進行する中で, 高齢者の生きがいづくりに対する多様なニーズに対応できる活動の展開が必要となっている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

60 歳以上の高齢者

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 見込み
A 60 歳以上の高齢者	人	83,161	85,594	85,594	87,605	92,600
B 老人クラブ加入者	人	15,247	15,112	15,112	15,039	15,400
C						

(3) 23 年度に実施した主な活動・手順

盛岡市老人作品展(10 月), 芸能大会(2 月)を盛岡市社会福祉協議会と盛岡市老人クラブ連合会と共催し, 開催した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 目標値
A 老人作品展及び老人芸能大会の出品者・出場者数	人	752	684	730	672	750
B 老人作品展及び老人芸能大会の参加人数	人	2,919	2,801	2,900	2,830	3,000
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

趣味に取り組んだり, レクリエーション活動に参加するようになる。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 目標値
A (老人作品展及び老人芸能大会の出品者・出場者/高齢者)×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	0.9	0.8	0.9	0.7	0.8
B (老人作品展及び老人芸能大会の参加者/高齢者)×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	3.5	2.4	3.4	3.2	3.2
C (老人作品展及び老人芸能大会の参加者/老人クラブ加入者)×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	19.1	18.5	19.1	18.8	19.4

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	① 国	千円	0	0	0	0
	② 県	千円	2,850	6,250	6,858	6,095
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	2,805	2,886	2,920	2,858
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	5,655	9,136	9,778	8,953
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	28	28	28	28
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	112	112	112	112
計	トータルコスト A+B	千円	5,767	9,248	9,890	9,065
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由；高齢者の趣味・文化活動等の成果発表の各種行事の開催により、生きがい活動や社会参加活動が促進され、高齢者の元気な暮らしにつながることから、結びついている。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由；高齢社会が急速に進行する中で、高齢者の生きがい対策を推進することは行政の役割である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由；高齢者の生きがい活動を目的としていることから、妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由；高齢者の社会参加や生きがい活動の促進が停滞する。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

活動への参加者を拡大していくことで成果向上が期待できる。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

参加希望者はすべて受け入れており、公平・公正である。

(4) 効率性評価

他団体との共催事業であるが、実質的な事務は負担金支出と行事への従事であり、削減はでき

ない。関係団体と実行委員会を組織して事業実施するなど、節減に努めている。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

参加者が老人クラブ中心になっていることから、市民に事業開催を広く周知する。また、来場者についても事業開催を広く周知する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

参加者や作品数が増加した場合の会場の確保。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

生きがいを推進する取組みとして、事業の重要性は高まっている。
参加者を増やす工夫に取り組み、継続実施する。